

## 東京 IPO 特別コラム

2016年11月14日 Vol.57

### 未知との遭遇

一部の有識者を除くと、ほとんどの皆さんがこの結果を予測することは難しいと感じた米大統領選ではなかったかと思います。日米の主要メディアが伝える観測とは真逆の結果となったトランプ新大統領の誕生で幕を閉じた米大統領選後の株式市場の乱高下は未知との遭遇により不安先行から期待へと変わり短期的に投機色が強まることになってしまいました。これからは冷静になって米国の政策の行方を見守る必要が出て参ります。手のひらを返したように各メディアは知られざるトランプ氏の人となりをこれまでとは全く違った表現でポジティブに伝えようとしています。正確なところを各メディアが伝えているのかは懐疑的にならざるを得ません。それにはもう少し時間を要するものと思われ。日本に対し今後は自立した防衛体制が求められるから、やれ防衛関連銘柄が良いとか株式関連メディアも目ざとく報道し、それによって短期急騰を演じる銘柄も出ているようですが、ここは冷静に対応しないとなりません。安倍首相は早速にトランプ氏と今週17日に会談することになったようで、意外にもトランプ氏はアベノミクスに対して高く評価しているとの一部メディアの報道がなされています。自国中心主義の主張だけでは米国経済は成り立たず基本的には日米は手を携えながら金融と財政をうまく組み合わせたトランプ新大統領ならではの施策が打ち出されるとの期待感が生まれつつあると言えるでしょう。

全体相場は大統領選の結果を受け、短期的に大きく乱高下し11月9日から11日にかけての日経平均は16,111円から17,621円というレンジでの変動を見せました。静観する投資家が多い中、主要メディアがネガティブなコメントをして不安感を煽るものだからトランプ大統領が優位との報道を不安視して株式を売却する行動を採った投資家は、その翌日のNYダウの上昇、為替の円安を見て買い戻しの動きを活発化。また、これまで買い手控えられてきた分、一気に買い意欲が膨らんできたことがここでの短期急落後の急騰相場につながったと見られます。こうした株価変動はそれぞれに予め想定されていた筈で、ヒラリーが大統領になったとしても相応に変動はあったに違いありません。

さて、日経平均やTOPIXがトランプショック直後、一気に直近の高値を抜く動きとなったのに比べ、マザーズ指数はなおも穏健です。創薬ベンチャーなどの調整や流動性重視の相場展開の流れが続いてきたためかと見られますが、今回は安値から10%の値上がりを示し本格的にボトムを形成したとの感触があります。

マザーズを中心にした中小型株や直近まで賑やかだった材料株が利益確定売りに頭重くなる展開が見られる中、年内のIPOは現在、既に10銘柄が予定されています。このうちの9銘柄がマザーズ市場に上場を予定。また、今年のIPO銘柄数は昨年と比べ減りそうですが、11月18日のフィルカンパニー(3267)から12月下旬まで例年通り、数多く予定されています。また、本日にも上場承認が下りると見られる自動運

## 東京 IPO 特別コラム

---

転関連のZMPが12月19日にIPO予定で、再び関心を集めるものと期待されます。こうして数々の未知の銘柄との遭遇が近づき、IPO銘柄に投資しようと考えておられる皆さんの期待と不安感が高まるタイミングを迎えようとしています。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)